

本日はご来店ありがとうございました。
 今月のマーズニュースは、ちょっと思考を変えて...
 70歳ママスタッフさんばかりが感動したお話を
 皆様にもお伝えしようと思います。ぜひ最後まで
 読んでみてください！

インターネットで見つけたちょっといい話 ～ロジャー・ムーアにまつわるお話がとても素敵でした～

5月23日にこの世を去った、3代目ジェームズ・ボンドことロジャー・ムーアさん。彼のファンで、脚本家として活躍するマーク・ヘインズさんが幼少期に彼と出会った時の忘れられないエピソードが注目されています。

1983年、まだ空港にファーストクラス用のラウンジというものが存在しなかった時代。

当時7歳だった僕が祖父とニース空港にいたとき、出発ゲート付近に座って新聞を読むロジャー・ムーアを目にした。

僕はたった今ジェームズ・ボンドを見たこと、一緒にサインをもらいに行きたいことを祖父に伝えた。

ジェームズ・ボンドもロジャー・ムーアも全く知らなかった祖父は、ふたりで歩いていくと、ロジャー・ムーアの前にひょいと僕を突き出してこう言った。

「孫が、あなたは有名人だって言うんです。これにサインしてくれませんか?」

期待を裏切らない人当たりの良さでロジャーは僕の名前を訊ね、航空券の裏にしかるべくサインをし、仰々

しいほどのメッセージを添えてくれた。

僕は有頂天になったが、自分たちの席に戻りながらふとサインを見たときのこと。

判読しづかったものの、そのサインが「ジェームズ・ボンド」でないのは明らかだった。

祖父は「ロジャー・ムーア」ではないかと半ば読み解き、それが誰だか皆目見当がつかなかった僕の心は沈んだ。

僕は彼のサインが間違っていること、別の誰かの名前を書いていることを祖父に話した。

そこでロジャー・ムーアがサインしたばかりの航空券を手し、祖父は彼の元へ引き返した。

自分の席に座りながら、祖父の言葉が聞こえてきたのを覚えている。

「あの子が言うには、サインした名前が間違っているそう。あなたの名前はジェームズ・ボンドだって言うんですよ」

事を理解したロジャー・ムーアの目尻に皺が寄り、彼は僕を呼び寄せた。

僕が彼の膝元まで行くと、彼は身を屈めて左右に視線を走らせ、眉を持ち上げて、ヒソヒソ声で僕にこう言ったのだ。

「私は『ロジャー・ムーア』という名前でサインをしなけ

ればならないんだ。さもないと...プロフェルド(ジェームズ・ボンドの宿敵)に私の居場所がバレしてしまうかもしれない」

彼はジェームズ・ボンドを見かけたことを誰にも言わないでほしいと僕にお願いし、秘密を守る僕に礼をした。

席に戻る僕の心臓は、喜びのあまりばくばくと音を立てた。祖父は「ジェームズ・ボンド」のサインをもらったかと僕に訊ねた。

うん、と僕は答えた。間違っていたのは僕だった。今や僕は、ジェームズ・ボンドと一緒に任務に就いたのだ。

それから長い年月が経ち、UNICEF関連の撮影で脚本家として仕事をしたときのこと。

ロジャー・ムーアが国連大使としてカメラに向かってセリフを言うことになっていた。

彼はとても素敵な人で、カメラマンが機材の準備中、僕はぼろりとニース空港で会った時のことを彼に話した。それを聞いた彼は喜び、笑ってこう言った。

「まあ、私は記憶にないんだが、君がジェームズ・ボンドと会えたことを喜ばしく思うよ」

素敵な体験だった。

ところが、彼はとんでもないことをやってくれた。

撮影後、自分の車に向かう彼が僕の脇をすり抜け...僕と並んだところで立ち止まり、左右に視線を走らせ、眉を持ち上げて、ヒソヒソ声で僕にこう言った。

「もちろん、ニースでの君との出会いは覚えていたさ。だが私が何も言わなかったのは、あのカメラマンたち...彼らの中の誰かが、プロフェルドの部下とも限らないからね」

7歳の時に負けず劣らず30歳の僕は有頂天になった。

なんて人だろう。

なんという、とてつもない人なんだろう。



ロジャー・ムーア

イギリス出身の俳優。大人気スパイ映画「007」シリーズにおいて、7作にわたりジェームズ・ボンドを演じた(これは2017年現在歴代最多である)。

